

2.3. 使いやすさ

使いやすさに関する要素としては、停留所、ターミナル、車両などの施設の他、運賃、定時性などが挙げられる。

2.3.1. 停留所

利用者の利便性向上を目指し、事業者が上屋を設置している例が見られる。事業者以外にも、沿道の企業等が設置している例も見られる。

停留所上屋については利用者要望も多いが、利用実態や運行状況を踏まえ、真に設置が必要な停留所の見極めや、待合い環境に関する沿道地域との協力のあり方等について、検討することが必要と考えられる。



図 2.3-1 上屋の設置例



図 2.3-2 待ちスペースの確保例

2.3.2. ターミナル施設

地下鉄主要駅には乗継バスターミナルが整備されている。

バスと地下鉄の乗り継ぎ利用にあたっては、上下方向の移動を生じることがほとんどであり、順次エレベータの設置が進められているが、駅構造や用地確保などの課題が大きい駅も残っている。

また、駅からバス乗り場に至る経路の情報提供について、検証が必要と考えられる。

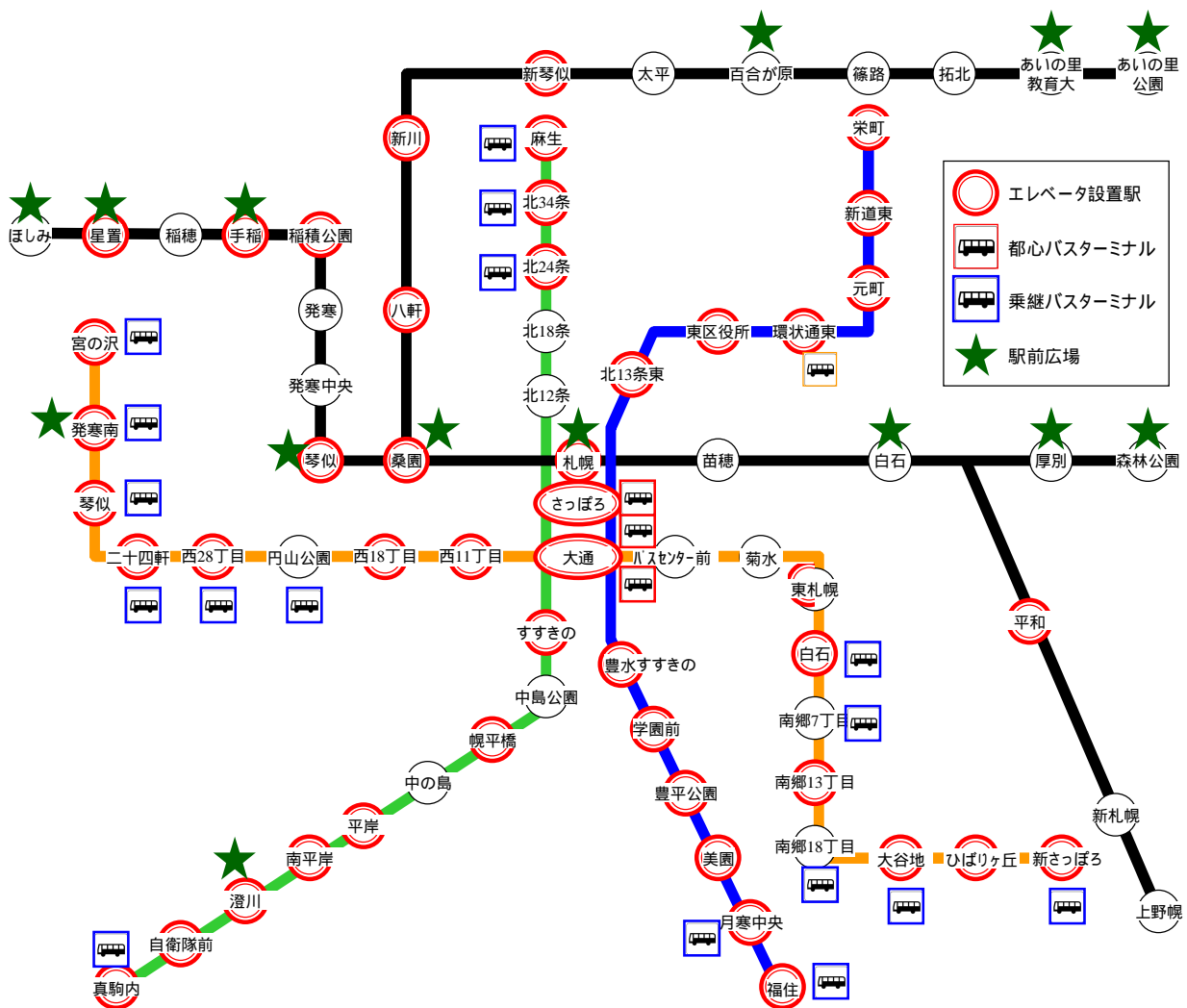


図 2.3-3 駅施設内エレベータ、駅併設のバスターミナルおよび駅前広場の整備状況
(第一回審議会資料より時点修正の上で再掲)

2.3.3. 車両

公共交通として全ての人にとって利用しやすい交通機関であることが求められる。

低床バスの購入は現在義務付けられているが、バスの更新があまり進まないことにより低床バスの普及率も上がっていない。

一部路線ではノンステップバスの運行時刻を固定し時刻表に表示している。全ての利用者がノンステップバスの運行状況を把握できることが必要であるのかについては、低床バスの運行時刻を固定することの問題等を踏まえつつ、検討する必要があると考えられる。

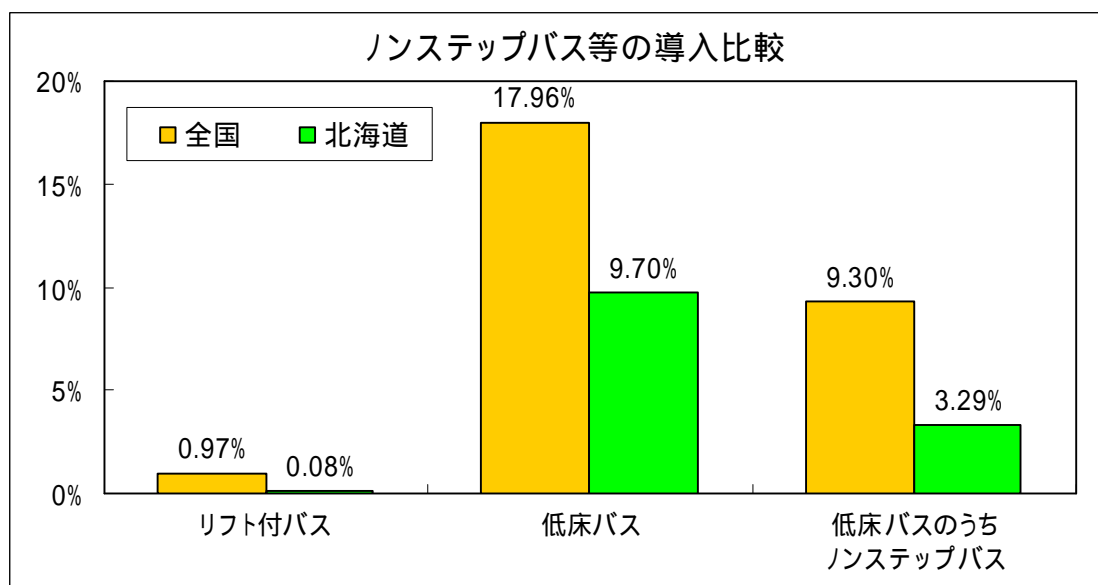


図 2.3-4 低床バス等の普及状況

資料：北海道地方交通審議会答申（北海道運輸局調べ、H16.3月末現在）

2.3.4. 乗車券や運賃の精算など

乗車券については、共通で利用できるカードのほか、多様な利用者のニーズに対応するため、各事業者が設定しているものがある。

これら乗車券は、目的などに応じて使用することで、より効率的なバス利用が可能になると考えられることから、一元的な情報提供の検討を要すると考える。

また、整理券の扱いやカードリーダーなど、運賃の精算については、事業者によって差異があるが、これらはいずれも事業者の路線構成や路線運営などの必要性に関係している。

表 2.3-1 運賃の支払いに関する現状

項目	現状
カード	市内のバスで使えるプリペイドカードには以下の種類がある。 各カードで、利用可能な範囲が異なっている。 <ul style="list-style-type: none">・ 共通ウィズユーカード・ 共通１DAYカード・ エコキップ・ 事業者独自のカード、割引制度 その他、回数券などがある。
整理券	・ 事業者により、整理券の扱い方が異なる。
カードリーダー	・ 事業者により、乗車時、下車時のカードの利用方法が異なる。 ・ カード裏面に利用履歴が生じない場合がある。

(1) 多様な乗車券

各社共通で利用できる共通ウィズユーカードの他、各社独自のバスカードなどが発売されている。共通ウィズユーカードでは、地下鉄とバスの乗り継ぎ割引制度が適用される。

この他、期間限定のカード、敬老パスなど、様々な乗車券が用意されている。

表 2.3-2 カードの例

カード	概要	バス利用可否
共通 ウィズユー カード 	市営交通（地下鉄・市電）と市内の各社バスで利用可。現金に比べ約 1 割の割引。	バス利用可 市内区間
共通 1 Day カード 	市営交通（地下鉄・市電）と市内の各社バス（対キロ区間除く）が一日大人 1000 円で乗り放題。 地下鉄専用 1Day カードは 800 円。	バス利用概ね可 バスの対キロ区間は別料金
エコ キップ 	毎月 5 日と 20 日の、マイカーから公共交通機関への乗り換えを呼びかける「さわやかノーカーデー」専用 1 日乗車券。大人 700 円、こども 350 円。	バス利用一部可 バスは一部区間で利用可。
敬老優待乗車証	70 歳以上の優待乗車券。利用者負担額は 1～2 割。1 年間有効で再発行や払い戻しは無し。利用額は 1 万円から 5 万円までの 5 段階から選択。	バス利用可 市内区間、70 歳以上のみ
ドニチカ キップ 	土曜日、日曜日、祝日に利用できる地下鉄専用 1 日乗車券。 大人 500 円、こども 250 円。	× バス利用不可

表 2.3-3 乗り継ぎ割引の現状

平成 16 年 4 月現在

交通機関	料金体系	料金	乗継割引 (地下鉄 - バス・電車)
J R	対キロ区間制	160 円 ～	
地下鉄	対キロ区間制	1 区 200 円 ～ 6 区 360 円	80 円引き (地下鉄 60 円 + バス・電車 20 円)
市電	均一制	170 円	
バス	特殊区間制	1 区 200 円 2 区 230 円	
	対キロ区間制	140 円 ～ じょうてつ・中央	
		160 円 ～ ジェイアール	

平成17年7月1日現在

